

第10課「誠実——健全と聖潔」

日曜日 荒れ野のイエス

私たちもテストされます。荒れ野なんかに行かなくとも、ちょっとしたことで、「神に従うなんて、ばかばかしい。やめちまいなよ」という誘惑にさらされています。しかも、その誘惑に負けて神に従うことをしょっちゅうやめてしまっている、それが現実なのかも知れません。譲歩・妥協に流れる道は実に容易です。「たった一回だから」「皆がやっているから」「小さいことで、たいしたことはないから」「やり直しが出来るから」。

「好点より要点に打て」という言葉があります。囲碁の世界における一つの原則です。局面において、一見好ましく見える場所ではなく、肝要な場所に石を下せ、ということだそうです。アダムとエバは、好点を選んだばかりにサタンの誘いに乗り、禁を犯してしまいました(創世記 3:6)。他方、主イエスは、荒れ野の試練の際、聖書のみことばにより、要点を押さえてサタンの誘惑を斥けました。「神の約束にすがり、・・・絶えず神の力にかたく信頼し、すすんで自己を捨てることによって、私たちは勝利することができます」(ガイド)。心に留めたい言葉です。

月曜日 誠実を貫く

ガイドに「誠実」と「正直」ということばがでてきますが、違いはどこにあるのでしょうか。「誠実」とは、「言葉」に「行動」がともなっていること。「正直」というのも、この「言葉」と「行動」で表現することが出来るのですが、こちらは順番が逆になるのです。つまり「正直」とは、「行動」に「言葉」が伴っていることなのです。ですから私たちの道徳的・霊的な生き方というものは、この「言葉と行動」によって構築されるということです。ガイドで紹介されている「ヨセフ」「ダビデ」「ダニエル」は、まさに「言葉と行動」が貫かれた輝く存在でした。

火曜日 信仰生活と誠実

たった一枚の板が船を沈没させる。たった一つ主にゆだねていないこと、執着している罪があると、取り返しのつかない災難に巻き込まれることが、ガイドに記されています。クリスチャンになって間もない頃は、目の開かれてない状態、それはまだキリストを外側に知る世界、キリストを外側に追求しているクリスチャン生涯でした。「聖霊は美容整形でなく心臓手術のように私たちの内側から働いて、私たちを造り変えてくださいます」(ガイド)。主の働くみ力の中で一度、自分のすべてを委ねきるゼロ地点を過ぎるなら、あなたの人生は神の存在の中で、無限に拡大し押し広がっていきます。信仰の中でその道を辿るならば、その旅路は決して退屈なものにはならないでしょう。そしてこれが、キリストを外側でなく「うちにいますキリスト」として知る経験です。まさにここが誠実を生きる源泉なのです。ガイドはあなたに問いかけます「問題は、神によって導かれているか、それとも肉の性質に支配されているか、です」と。この決定的なところを、いい加減にしないことです。

水曜日 性的誠実

純潔を求めて祈るクリスチャンの祈りをCSルイスが紹介しています。「主よ、私を純潔な人間にしてください」と唇が語っている時に、その心はひそかに、「でも、いますぐにはありません」と付け加えていたというのです。聖さを求めようとするのを困難にしていることが、私たち自身のうちにあるのです。「少しくらいいいじゃないか」「みんなやっていることだから」。そういう心の声に、すぐに寛容になってしまい、小さなつまずきを容認してしまう弱さがあります。主の前に真剣に求めようとする人たちが度々経験することかもしれません。

不道徳に打ち勝つ方法！ 1. 神に赦しを求める(罪であることを認めて)。 2. 性的な欲望をかき立てる状況を避ける(映画やテレビ、雑誌やインターネット等)。 3. あなたを助けてくれる人を見つけておく(キリストこそ、そのための唯一のお方)。

木曜日 信じるどころに従って行動する

妥協癖と弱腰譲歩常連の私たちが、毅然として信じるどころに従って行動できる秘訣は何でしょうか。「彼らの中に不誠実な者たちがいたにせよ、その不誠実のせいで、神の誠実が無にされるとでもいうのですか。決してそうではない。人はすべて偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです」(ローマ3:3, 4)。これは確信を与えるみ言葉です。常に真実を貫かれる神があなたと共にいて下さると言うのです。決して無になる事のない神の誠実のお陰で、偽りカメレオンの私たちが神の誠実を衣とし、身につけ変えられて歩めるのです。その恵みを受けているので、自分自身をいつでも礼拝として完全に主にささげられるのです。主の恵みはほむべきかな。